2020
11
No. 695

國學院大學學報

「新橋停車場」

高架線のぷらっとほうむ　長ながと、
今日も迄えつゝ　昏るゝなりけり
（「海やまのあひだ」）

釈　迢空

国学院大学
令和２年11月20日㈮　定期号（毎月20日発行）１部20円
［発行］国学院大学　［編集］総合企画部広報課　〒150-8440 東京都渋谷区東四丁目　［電話］03（5466）0130　［FAX］03（5466）0528

祭　儀　■**月次祭・新嘗祭**　12月１日（火）　午前10時　神殿

新型コロナウイルスの感染拡大をきっかけに、私たちの暮らしには「新しい日常」が求められている。学修の場も例外ではない。一方で、ウイルスという目に見えない不安が、人から冷静さや平常心を奪い、「自粛警察」「不謹慎狩り」といった平時には考えられないような人々の攻撃的な行為を顕在化させている。

マスクをしていない人を過剰にとがめる、飲食店に休業を要求する張り紙をする、遠方の都道府県のナンバープレートをつけた車に嫌がらせをする…。休業や外出自粛の公的な求めに従っていないとして、他者を糾弾し自粛を強いるような行為が社会問題化した。

社会の〝分断〟を生むような風潮は、コロナ禍に限ったことではない。人種差別やいじめなど、現代社会が抱えている根深い問題は後を絶たない。

このような風潮を解消し、人が他者とともに「より善く生きる」ためには、何が求められるのだろうか―。道徳教育学を専門とする国学院大学人間開発学部の田沼茂紀教授は「自らを省みること」「多くの人が納得できる共通解を見いだすこと」をヒントに挙げる。そのうえで、こうした力を身につけた人格を形成するために役立つ基盤となるのが、「道徳」だと説く。

不安な現代社会を「より善く生きる」ため、「道徳とは何か」について改めて考えてみたい。

【6・7面に関連記事】

観光学部観光まちづくり学科（仮称）
認可申請を取り下げ 再申請めざす

国学院大学は、令和３年４月の開設に向け文部科学省に認可申請をしていた観光学部観光まちづくり学科（仮称）について、審査における教育課程の編成に関する指摘により、令和３年の開設が困難な見通しとなったため、申請の取り下げを決定し、10月22日に発表した。

針本正行学長は「進学を検討されていた受験生をはじめ、保護者の皆さま、高等学校教員の皆さま、並びに観光学部の設置に向けてご尽力くださいました関係者の皆さまには、多大なご迷惑をお掛けし、心からお詫び申し上げます。観光学部観光まちづくり学科については、指摘のあった教育課程を含めて内容を精査し、令和４年４月の開設を目指し、改めて申請を行いますので、引き続きご理解とご協力をお願いいたします」とコメントを発表した。

立皇嗣の礼にあたり
謹んでお慶び申し上げます。

学校法人国学院大学

みはるかすもの

岩手県紫波町で毎夏、学生団体「森木会」が地元の人たちと一緒に行っている里山の間伐に同行取材した時、密かな楽しみだったのは地元の人が「小昼」と呼ぶ休憩である。手作りの郷土菓子やとれたての夏野菜が、慣れない山仕事の疲れを忘れさせた。午後の小昼は午後２時から３時で「おやつ」の語源の八つ時だ▼東京都内で働く者にとって、最近八つ時に気になるのは都が発表する、その日の新型コロナ感染者数。増えた減ったに一喜一憂する日々は半年を過ぎた▼とかく目先の数字の変化、即効性を期待するが、自然はそうはいかないことが多い。新型コロナとの同時流行が懸念されるインフルエンザ。スペイン風邪と言われ流行したのは１００年も前のことだ▼医学が進歩したとはいえ、毎年の予防接種はいまだに欠かせない。自然との向き合い方は、試行錯誤の連続で、正解は容易に見通せない▼間伐作業もしかり。幹の直径が10センチあまりの木を倒すのにも、慣れない初心者がなたやのこぎりを使えば１時間近く要することもある。木が伸びる方向、倒したい斜面を見定め、刃を当てても思い通りにならないことの連続で手間もかかる。だからといって里山を放っておけば、木々の成長は阻害され、自然環境は悪化する▼哲学者・ニーチェは「高く登ろうと思うなら、自分の足を使うことだ」と言葉を残す。リスク回避に執着しても、自然が歩み寄らないことは歴史を見れば明らかだ。

主な内容　**2面**／創立記念祭、関係物故者慰霊祭を執行　**3面**／令和3年度学費一覧　**4面**／私の遠隔授業実践談
5面／先輩に聴く　**6・7面**／特集　大学生と道徳　基本のきーより善く生きるためにー　**8面**／インフォダイジェスト

最終面から K:DNA　**Ⅰ面**／講道館杯　男子66㌔級で表彰台独占　**Ⅱ面**／全日本大学駅伝　総合9位　**Ⅲ面**／東都大学野球秋季リーグ3位
Ⅳ面／楽しもう国大ライフ！　私たちの部会・サークル・研究会

KOKUGAKUIN UNIVERSITY 140th 1882–2022

創立記念祭、関係物故者慰霊祭を執行

感染症対策のため参列者を限定して斎行された創立記念祭

関係物故者慰霊祭では慰霊の舞が奉奏された

学校法人国学院大学は、11月4日に母体である皇典講究所の創設から138年を迎えるにあたり2日、創立記念祭はじめ関係物故者慰霊祭、永年勤続者表彰式を渋谷キャンパスで執行した。

創立記念祭（斎主＝大野靖仁神殿奉斎員・法人事務局部長）には、佐柳正三理事長をはじめ針本正行学長、法人、大学役教職員らが参列。学生や一般職員の参列は感染症対策のため見送られた。

祝詞奏上に続き、神道文化学部学生が浦安の舞を奉仕。参列者は、本学が積み重ねてきた138年の歴史に思いをはせつつ、今後の本法人の発展と新型コロナウイルスの早期収束を祈念した。

佐柳理事長は、明治15年に皇典講究所の開校式に当たって有栖川宮織仁親王が述べられた告諭の一節「今ヨリ後職員生徒此ノ意ヲ體シ夙夜懈ルコト無ク本鬘ノ隆昌ヲ永遠ニ期セヨ」に触れて「原点に戻り、全員の一致協力のもとにこの難局に対処していきたい」と挨拶した。

続く関係物故者慰霊祭（斎主＝茂木貞純神殿奉斎員・神道文化学部教授）は、創立以来本学関係者で物故した役教職員や学生生徒、中でもこの1年間に亡くなった関係者の御霊を迎えて斎行された。伶人の「追慕歌」「慰霊の舞」が奉仕された。佐柳理事長、針本学長に続き、遺族らが祭壇に玉串を捧げて拝礼し、物故者をしのんだ。

永年勤続者表彰に25人

永年勤続者の表彰式が11月2日、渋谷キャンパス有栖川宮記念ホールで行われた＝**写真**。表彰者は次の通り（敬称略）。

【勤続45年】津田栄、細川豊樹（以上国学院高等学校）

【勤続40年】橋本憲市郎（法人）、古山悟由、小林雅子（以上国学院大学）、清水宏、清川奈緒美（以上国学院高等学校）

【勤続30年】大久保桂子、諸星美智直、山岡敬和、植村勝慶、仙北谷穂高、謡口秀見（以上国学院大学）、野島功、佐々木誠、染谷孝一郎（以上国学院高等学校）、迎田和彦（国学院大学久我山高等学校）

【勤続20年】佐野真之、高橋純子（以上国学院大学）、前澤茂伸、宮本玄輝、幸松世剛（以上国学院高等学校）、田中正幸、後藤亜衣（以上国学院大学久我山中学高等学校）、中村幸穂（国学院大学附属幼稚園）

感染症対策の徹底を！　対面授業受講上の留意事項

●基本的な留意事項
①継続的に手洗い、咳エチケットの徹底を
②「3密」を避ける取り組みを
③免疫力を高める十分な睡眠、適度な運動、バランスの取れた食事を

●具体的な留意事項（一部）
①毎朝検温をし、発熱や咳などの風邪症状がみられる場合、同居する家族、身近な知人に感染が疑われる場合は登校を控え、授業は欠席を
②『検温等チェック表』への記入を
③『新型コロナウイルス感染症防止チェック表』に必要事項を記入し、担当教員から求められた場合は提出を
④大学構内では必ずマスクの着用を
⑤入退館、入退室時には手指消毒の徹底を
⑥教室では着席不可の席には座らない

【8面にも関連記事】

理事長らが展墓

学校法人国学院大学では、創立記念日を迎えるにあたり、佐柳正三理事長、大村秀司常務理事が10月28日、護国寺檀徒墓地に皇典講究所初代所長・山田顕義伯の展墓を行った。

本法人顧問・彫刻家 澄川喜一氏が文化勲章

政府は10月27日、今年度の文化勲章受章者5人を発表し、彫刻家で学校法人国学院大学顧問の澄川喜一氏（文化功労者、日本芸術院会員、東京芸術大学元学長）が受章した。

澄川氏は昭和27年に東京芸術大彫刻科に入学し、木彫の大家・平櫛田中氏や塑像の第一人者・菊池一雄氏に師事。東京スカイツリーのデザイン監修などで知られる。

本学の創立120周年記念事業として平成14年に着手した渋谷キャンパスの再開発事業では、澄川氏に渋谷キャンパス選定専門委員会委員長を委嘱し、キャンパスの総合的なデザイン監修を依頼した。3号館竣工に合わせて「翔」と「翼」の2作品をキャンパスに設置している。

渋谷キャンパスでは29日、モニュメント「翔」の前に澄川氏の受章を慶祝する看板を設置した。佐柳正三理事長は「澄川先生の文化勲章受章を心よりお喜び申し上げます。開かれた都市型大学を目指した象徴的存在であるモニュメント『翔』には、『人が寄り添う』『若者の無限の成長』などの意味を込めて製作したと、先生から伺いました。本法人にとっても誠に栄えある本受章を機に英知が込められたキャンパスをさらに良いものとして後世に繋いでいきたいと思います」と祝意を表した。

文化勲章の親授式は11月3日に皇居で開かれた。

教職員人事

学生部長＝鈴木達次（法学部教授）（任期・令和2年10月1日～令和3年3月31日）

澤登名誉教授逝去

澤登俊雄名誉教授が10月4日に逝去。90歳。葬儀は10月8日、日本キリスト教団生田教会（川崎市多摩区）で行われた。

澤登氏は昭和5年生まれ。28年京都大学法学部卒業、33年名古屋大学大学院法学研究科修了。中京大学助手、三重短期大学講師などを経て40年国学院大学法学部助教授。45年教授、平成12年定年により退職。同年名誉教授。在職中、本法人理事、法学部長、図書館長などを歴任したほか、文部省学術審議会専門委員、日本学術会議委員も務めた。

専門は刑事法学。著書に『少年非行と法的統制』（成文堂）、『少年法 基本理念から改正問題まで』（中公新書）などがある。

総合型･学校推薦型選抜入試 オンラインで試験を実施

国学院大学では、新型コロナウイルス感染防止の一環として、10月から始まった総合型・学校推薦型選抜入学試験を、受験生がキャンパスに来校せずに受験するオンライン形式に変更して実施している。

11月15日に行われた文・神道文化・法・人間開発学部の公募制自己推薦（AO型）2次試験では、オンラインでの小論文試験や、ビデオ会議システム「Zoom（ズーム）」を使った面接を実施した。

今回の入試を終えて、鵜澤英子入学課長は「受験生の健康と感染症の拡大防止を最優先した判断としてオンラインでの実施を決断した。試験環境の整備してくださった受験生、高校など関係者の皆さまにまず感謝申し上げたい。また、当日は特段大きな混乱なく実施することができ、安堵している。今後の試験運営に生かしていきたいと思う」とコメントした。

若木育成会 遠隔個別相談を実施

在学生の父母らで組織される若木育成会は、例年5月下旬から8月上旬まで教職員が全国各支部に赴いて支部の集いを開催し、大学の現況説明や学修、就職に関する個別相談を行っている。今年は新型コロナウイルスの感染拡大に伴い中止となったことを受け、会員（本学学生の保護者）を対象に、ビデオ会議システム「Zoom（ズーム）」を利用した個別相談を10月17日から11月8日までの土曜、日曜に実施した。

面談は、授業・成績と就職・進路に分かれ、期間中のべ約400人が参加し、それぞれ教務課、教育開発推進機構事務課、キャリアサポート課、神道研修事務課、たまプラーザ事務課の担当者が対応した。

これに先立ち10月2日からは大学ホームページに履修・成績表の見方やキャリア支援の内容などを紹介した動画を公開。保護者対象の行事が中止となる中、学生支援、学修支援の実情の理解促進に努めた。

成績優秀者奨学生を表彰

国学院大学は、令和2年度の成績優秀者奨学生56人を決定し、表彰式を行った。同制度は、前年度特に優れた学業成績を修めた者を表彰し、さらにその能力を伸ばし勉学を奨励する制度で、2年生以上の学生が対象。

文学部、経済学部、法学部、神道文化学部学生の表彰式は11月11日、渋谷キャンパスで学部ごとに行われた。人間開発学部は18日、たまプラーザキャンパスで実施した。

表彰式では各学部長が挨拶。西岡和彦神道文化学部長は「勉強で得たものを自分のものにして、近い将来社会に還元してもらいたい。それによって表彰が実りあるものになる」と、橋元秀一経済学部長は「多くの人に影響を与える存在になってもらいたい」などと奨学生を激励した。

令和3年度 学費一覧

令和3年度学費は次の通りです。

学　部

（単位：円）

区分	入学年度	入学金	授業料	施設設備費	維持運営費	合計
文学部	令和3年度	240,000	760,000	210,000	10,000	1,220,000
経済学部						
法学部						
神道文化学部						
人間開発学部		240,000	800,000	250,000	10,000	1,300,000
文学部	令和2年度	——	760,000	210,000	10,000	980,000
経済学部						
法学部						
神道文化学部						
人間開発学部			800,000	250,000	10,000	1,060,000
文学部	令和元年度以前	——	700,000	201,000	10,000	911,000
経済学部						
法学部						
神道文化学部						
人間開発学部						

備考　再入学者の入学金については半額とする。

別科

（単位：円）

入学年度	入学金	授業料	施設設備費	維持運営費	実習料（入学年度のみ）	合計
令和3年度	145,000	420,000	81,000	10,000	6,000	662,000
令和2年度以前	——	420,000	81,000	10,000	——	511,000

専攻科

（単位：円）

出身別	入学年度	入学金	授業料	施設設備費	維持運営費	合計
本学卒	令和3年度	120,000	760,000	105,000	10,000	995,000
他大学卒		240,000	760,000	210,000	10,000	1,220,000
本学卒	令和2年度	——	760,000	105,000	10,000	875,000
他大学卒		——	760,000	210,000	10,000	980,000

備考　本学出身者の入学金および施設設備費は半額とする。

大学院

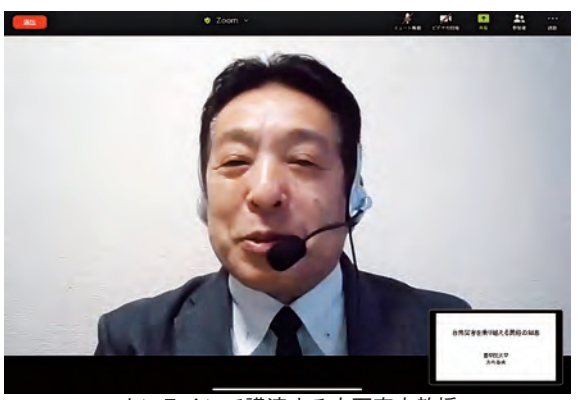
（単位：円）

区分	出身別	入学年度	入学金	授業料	施設設備費	維持運営費	合計
前期課程	本学卒	令和3年度	100,000	505,000	100,000	10,000	715,000
		令和2年度以前	——	505,000	100,000	10,000	615,000
	他大学卒	令和3年度	200,000	505,000	200,000	10,000	915,000
		令和2年度以前	——	505,000	200,000	10,000	715,000
後期課程	本学卒	全入学年度	——	505,000	——	10,000	515,000
	学部本卒 前期他卒※	令和3年度	100,000	505,000	100,000	10,000	715,000
		令和2年度以前	——	505,000	100,000	10,000	615,000
	他大学卒	令和3年度	200,000	505,000	200,000	10,000	915,000
		令和2年度以前	——	505,000	200,000	10,000	715,000

備考
1．授業料、施設設備費、維持運営費は在学中毎年度納入するものとする
2．本学出身者の入学金及び施設設備費については次の通りとする
　イ．前期課程＝半額
　ロ．後期課程＝本学前期課程修了者は徴収しない。本学学部出身者で、他大学前期課程修了者（※）は半額

令和2年度 渋谷区民大学講座
神社は津波避難の目印
「先人の知恵」文化財の保護を

国学院大学エクステンションセンターは10月24日、東京都渋谷区民を主な対象とした令和2年度渋谷区民大学講座「自然災害を乗り越える民俗の知恵」を開催した。今年度の講座は、民俗学や国文学を専門とする文学部の大石泰夫教授が講師を担当。新型コロナウイルス感染拡大防止のため、初めてオンラインでの開催となり約40人が受講した。



オンラインで講演する大石泰夫教授

大石教授は、全国の文化財を災害から守る文化財防災センターの有識者会議メンバーも務める。平成3年から30年まで岩手県の盛岡大学で教鞭を執っていた縁から、東日本大震災の際に岩手県を襲った津波被害を調査した。社殿が標高の高い場所に設置された神社は津波による被害を免れたことを引き合いに、先人の「生きるための知恵」が詰まった文化財を後世に残す意義を説いた。

神社や津波海嘯（かいしょう）碑の立地場所は「災害時に安全な場所」を示す先人の知恵に基づく。一方で、神社が避難場所であると後世まで伝わらず、社殿を市街地に遷座した神社が津波の被害を受けたことから、安易な移設が危険を伴うと警鐘を鳴らした。

「先人の知恵」を守る手法としては、地域住民に文化財の話を聞き、マッピングして地元高校の生徒に引き継いでもらう鹿児島県の奄美「シマ遺産」モデルが紹介された。

大石教授は「人々の記憶への残し方を工夫しながら、先人の知恵が詰まった民俗信仰を防災に生かしてほしい」と訴え、「地元の神社や石碑などを、一度確認してみてください」と結んだ。

私の遠隔授業実践談

経済学部・紺野由希子准教授

新型コロナウイルスの感染拡大を背景に突如始まった遠隔授業。国学院大学では5月から、ビデオ会議システム「Ｚｏｏｍ（ズーム）」によるライブ配信、収録した動画のオンデマンドによる配信、Ｋ－ＳＭＡＰＹⅡを通じた課題の提示などの中から、それぞれの教員が科目の目的や内容、規模などに応じて最適な方式を選択し、遠隔授業を展開してきました。いまだに試行錯誤を強いられる授業づくりの実情を、「私の遠隔授業実践談」として複数回に分けて紹介します。1回目は経済学部の紺野由希子准教授（専門・企業財務、計量経営分析）に聞きました。

遠隔授業への取り組みを入門ゼミナールに絞って報告します。学部1年次の入門ゼミナールである基礎演習は、Ｚｏｏｍを用いてリアルタイムの講義を行いました。受講生の提出物を常にチェックし、ミニ講義形式による全体への伝達のほか個別の助言も実施します。アシスタント役である学部2年生のＦＡ（学生ファシリテーター&アドバイザー）は、自身の経験をもとに受講生へ助言するなど交流の役割を担ってくれました。

基礎演習ではアクティブラーニング形式の講義を実施していますが、面識のない学生同士がオンライン上でグループワークを行うため、相手のリアクションが見えにくい、伝えにくいことへの戸惑いがありました。このような状況の中で、ＦＡを中心に円滑なコミュニケーションが図れるようにおおげさにリアクションを取る（大きく頷く、全員で拍手するなど）ように呼びかけたり、学生同士の交流が起こりやすいように毎回違うメンバーでアイスブレークを行ったりと工夫を凝らすことで、クラスでの一体感が生まれました。

現在、基礎演習では経済学部2年生23人のＦＡがおり、毎回の振り返りや研修を通じ、情報共有やファシリテーター能力の向上に取り組んでいます。経済学部1年生の悩みや困りごとを広く把握することが可能で、演習の際に反映させることができます。1年生にとってＦＡは心強い存在と映ったことでしょう。演習後半には「ポストコロナ時代の新しい働き方」をテーマに発表してもらいましたが、コロナ禍の経済学部生ならではの踏み込んだプレゼンが目立ちました。

不自由な学びを強いられるなか、学生の深い探求心、後輩への思いやり、自主性の高さを強く感じました。

前期に行われた「基礎演習Ａ」の様子
※個人が特定できないように加工しています
（紺野准教授提供）

国学院大学博物館 企画展「楽石雑筆―神道考古学の祖 大場磐雄の記憶と記録―」開幕

企画展「楽石雑筆―神道考古学の祖 大場磐雄の記憶と記録―」が11月５日、国学院大学博物館で開幕した。「神道考古学」を提唱した考古学者で、本学で教鞭をとった大場磐雄博士の足跡を多くの館蔵資料から紹介する。

『楽石雑筆』は、大正７（1918）年から大場博士が書き綴ってきた日記で昨春、茂木雅博氏（茨城大学名誉教授、本学博物館客員教授）から寄贈されたもの。企画展では、『楽石雑筆』や関連する野帳、実測図などの記録から、大場博士が薫陶を受けた鳥居龍蔵、折口信夫、宮地直一との交流や、先史時代から古墳時代まで幅広く手掛けた発掘調査の足跡をひもといている。

なかでも、昭和18年に初めて行われた登呂遺跡（静岡市）の発掘調査の記録では、『楽石雑筆』に記録された竪穴建物の図面やメモを展示するほか、遺跡から出土した木製品から大場が石膏を使って作製した模型を展示。展示を担当した深澤太郎・研究開発推進機構准教授は「木製品は出土直後から外気にさらされ劣化する。出土直後に作った模型からは大場の丁寧な仕事ぶりがうかがえる」と話した。

会期は12月26日まで。新型コロナウイルス感染症対策に伴い、開館時間は水・木・金・土曜日の正午から午後５時（最終入館は午後４時半）となっている。

学問ノ道　第30回

皇典講究所初代所長・山田顕義伯と漢詩

明月如銀秋満林　　明月　銀の如く　秋林に満つ
知君此際感應深　　知る　君　此の際　感応に深かるべし
山河懸隔相思夜　　山河　懸隔して相思ふの夜
一片風雲兩地心　　一片の風雲　両地の心

右の漢詩は、後に皇典講究所初代所長となる山田顕義が友人思甫こと品川弥三郎に宛てた七言絶句である。詩題には「中秋の後三夜、月色清朗にして、列営寂寥たり。偶々品川思甫を懐ふ」とある。慶応３（１８６７）年８月18日、中秋の名月の３日後。維新直前の緊迫した時代背景の中で、詩は皎々と冴える月を詠じ、秋の気配に浸りながら、遠く離れている友人に思いを致している。詩は、唐の白居易の作品を意識しながら、優れた出来となっている。

江戸時代に至るまで、わが国において学問と言えば「漢学」を意味していた。「国学」は、漢学を批判原理として自らの学問を析出し闡明していったのである。その理解が深くなければ、自らを考察し究明することはできない。「漢学」の歴史は永く、分厚い蓄積があった。明治15（１８８２）年８月、皇典講究所が設立され、その教育課程を編成した際にも、修身には『古事記』『日本紀』と並び『論語』『大学』が、歴史には『続日本紀』『三代実録』と並び『史記』『漢書』が、文章には『万葉集』『徒然草』と並び『文章規範』『韓愈文』などが正と副として配置されていた。漢詩・漢文は、日本古典と共に学問の双璧でもあった。

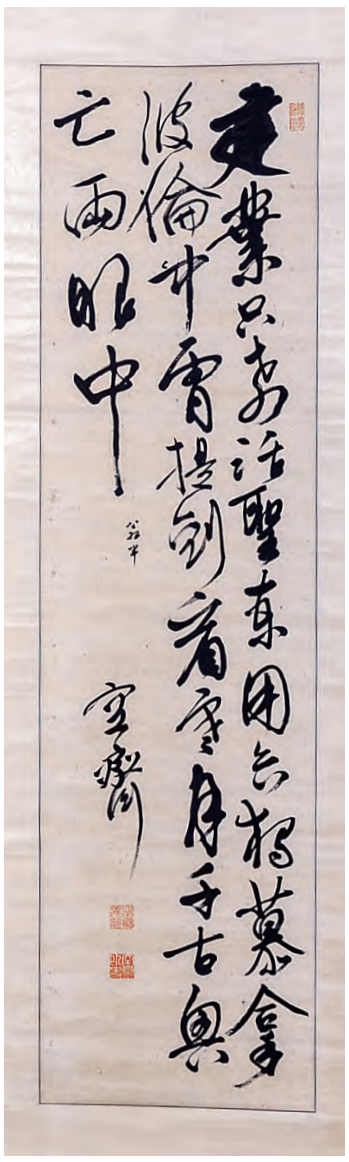
山田の人となりは、用兵には異才有りと評され、また司法大臣の経歴から軍事・法制面での活躍が目立ち一見武骨な印象を与えるが、実はそうではない。松下村塾の師吉田松陰や同門高杉晋作らと共に漢詩創作は、その心情を理解する上で欠くことのできない貴重な資料である。山田の祖父市郎右衛門は漢学者であり、「幼より和漢の書を好み」と記されるように、その血脈の根底に漢学は息づいていた。漢詩を松下村塾助講の富永有隣に、書を藩校明倫館の講師長三洲を師として学んだ。

山田顕義

漢詩は広く長い間、東アジアにおける士大夫階層の共通の教養として普及していた。江戸期から幕末・明治維新期に於ける教養人の叙情の発露として、個人の表現手段としても歌道に遜色のない立場を保持していた。

山田顕義、幼名顕孝、号を空斎、不抜、韓峯山人と称するのも漢学者の伝統である。今に残る３５０首の漢詩は、山田の生涯を見る上で欠くことはできない。

文学部教授（特別専任）赤井益久



「将発上国（将に上国に発たんとす）」（校史学術資産研究センター所蔵）

先輩に聴く

現地でしか知れない情報がある

小学館サライ編集部兼ライフスタイル局編集長　今井康裕さん（平3卒・99期史）

社会の高齢化が進む中、シニア層が求める歴史や文学、旅行、グルメなどにまつわる情報を発信し続けている小学館（東京都千代田区）の月刊誌『サライ』。今井康裕さん（平3卒・99期史）はその編集に長く携わってきた。読者の知的好奇心に応えようと誌面作りで大切にしているのは「現場感」だという。

出版業界を志望したのは、歴史を学ぶことが好きで、未来の史料になるような記事や本を残したいと思ったのが動機だった。『サライ』の編集でこだわっているのが「現場感」。インターネット上に情報があふれている時代だが、本当に面白い話は現場に行かなければ知りえることはできないと感じている。だから取材先へは可能な限り足を運ぶようにしている。

最近では、苔の美しさで知られる平泉寺白山神社（福井県勝山市）を取材した際に偶然、早朝に小雨が降ってきたことがある。苔の美しさは雨に少し濡れた早朝により映える。良い写真を撮ることができた。また、門前に土産物店が全くなく、宮司に理由を尋ねると、「静かな雰囲気を後世に残すため」とのことだった。現地に行かなければ知ることのできなかった情報だ。

コロナ禍では取材に制約を強いられた。緊急事態宣言後は地方取材に行けず、つらかった。でも目先を変え、ふだんは誌面でほとんど取り上げたことのない東京都内の歴史を紀行連載の題材にしてみた。私は都内に30年以上暮らしているが、都内を巡って初めて知ることも多く、とても興味深い経験をさせてもらっている。

『サライ』の誌面は今後も大きく変わることはないと思う。とはいっても、新しいテーマや見せ方を工夫していかなければならない。そのためにも、現場取材をこれからも大切にしていきたい。学生の皆さんも自分の足を使って、見聞を広げてほしい。（談）

いまい・やすひろ

国学院大学文学部史学科を卒業し、小学館に入社。『週刊ポスト』『ＤＩＭＥ』などの雑誌編集に携わり、『サライ』では副編集長も歴任。令和元年７月からは、サライ編集部の編集者と、書籍編集部門の編集長を兼任している。プライベートでは父子で「日本百名城」巡りを達成。在学中はウエートトレーニング同好会に所属。

▶『サライ』公式サイト　https://serai.jp/
▶小学館HP　https://www.shogakukan.co.jp/

能楽を支え続ける人と人との繋がり

国立能楽堂営業課営業課長補佐　羽鳥道成さん（平2卒・98期文）

伝統芸能を保護・育成する日本芸術文化振興会に属する国立能楽堂（東京都渋谷区）で、営業課長補佐兼広報担当の係長として能楽の魅力を発信し続ける羽鳥道成さん（平2卒・98期文）。コロナ禍で長期休演に追い込まれたが、苦境の中でも「人との繋がりを大切に」との信条から新たな道を発見したという。

歌舞伎が好きで、大学時代は劇場に通い続けた。それもあって、伝統芸能に関わる仕事として今の職場を選んだ。

法人が管轄する種々の劇場で仕事をしてきたが、２年間の文化庁出向で外から組織を見つめ直すことができた。芸術団体や実演家、公立文化施設を支える芸術文化振興基金で助成の審査の事務局をしたことで舞台芸術の現状を知った。可能な限り公立文化施設の担当者と直接話し合うことを心掛けてきた。その経験が今の仕事やコロナ禍での対応に生きている。

お客さまや実演家などすべての人との繋がりが欠かせない。繋がりの中で、中堅・若手能楽師らと能楽に対する敷居を低くする取り組みにも挑んでいる。能とともに能楽を構成する狂言には、院友で人間国宝の山本東次郎さんや若い人にも知られた野村萬斎さんのような方がいるが、能にも国学院大学出身者をはじめ多くの有望な人材がいることもアピールしていきたい。

今回のコロナ禍で４カ月もの休演を強いられ、「何もしないのでは能楽堂が忘れられてしまう」との思いから、若い女性向けのスマホアプリで動画配信に挑んだり、能楽堂の地元・千駄ケ谷の鳩森八幡神社や日本将棋連盟などとオンラインのイベントに参画したりと、新たな道を模索。これまで意識しなかった足元での繋がりを見いだせたことは収穫といえる。

コロナ禍で人とのリアルな繋がりを続けるのが難しい時期だが、会わなくてもやり取りできるツールもあるので、若い学生たちには積極的に人と関わってほしい。一つの事象に偏らず多方面に目を向けることができるのが学生時代だ。その一つとして、伝統芸能に目を向けてもらえればありがたい。（談）

はとり・みちなり

国学院大学文学部文学科を卒業し特殊法人国立劇場（現独立行政法人日本芸術文化振興会）へ。国立能楽堂など法人の種々の劇場に勤務後、平成20年から２年間、文化庁に出向。芸術文化振興基金の基金部を経て26年から現職、令和２年から宣伝編集を兼務。

▶国立能楽堂ＨＰ
https://www.ntj.jac.

アンケート回答者の中から５名様に読者プレゼント

アンケートに回答してくださった方の中から抽選で５名の方に、今号「先輩に聴く」で紹介した国立能楽堂のオリジナルエコバッグをプレゼントします。アンケートは右のQRコードから（締切：12月15日）。なお、当選者の発表は、発送をもって代えさせていただきます。

アンケート回答者の個人情報は法令に基づきプレゼントの発送に限り使用します。

アンケート

インタビューの詳細は、大学HP「国学院大学メディア」で公開中。ＱＲコードからアクセスを

大学生と道徳

基本のき

より善く生きるために

生涯続く「自分探しの旅」

集を通じ、「より善く生きる」ためのヒントについて、一緒に考えていきませんか？

「道徳」は、平成30年度から小学校で、令和元年度から中学校で、それぞれ教科化されています。教職課程を履修する学生は子どもたちを将来、指導するために道徳教育を学びますが、他の学生の大半は大学で道徳教育に触れる機会は少ないはずです。ましてや社会人になれば、その機会はさらに減るでしょう。しかし、道徳は他者とともに「より善く生きる」ために必要なものです。自分の生き方や在り方を省みることは、社会人になっても続きます。その意味で、道徳は生涯をかけた「自分探しの道」といえます。特

Profile

人間開発学部初等教育学科

田沼茂紀 教授

専攻は道徳教育学、教育カリキュラム論。平成21年から国学院大学人間開発学部教授。平成29年4月から31年3月まで同学部学部長。日本道徳教育学会理事。『学校教育学の理論と展開』『未来を拓く力を育む特別活動』（いずれも北樹出版）など著書多数。

自ら道をひらく叡智を

人にとって最大の関心事は、「生きる」ことです。古代ギリシャの哲学者、ソクラテスは神を冒涜したという訴えで市民裁判により有罪判決を受け、「悪法も法なり」と言って毒杯をあおいだとされます。弟子のプラトンが、死を前にしたソクラテスと親友、クリトンの語り合いをまとめた対話集『クリトン』の一節に、ソクラテスの名言が残されています。

「善く生きることと、美しく生きることと、正しく生きることは同じだ」

人が自分らしく善く生きようと志向するのは天賦の徳性であり、古今東西を問わず誰もが希求する理想です。道徳は自分の生き方や在り方を考えることであり、その生き方や在り方を考えるきっかけを与える人格陶冶を担うのが道徳教育だといえます。そして、最高学府である大学教育には、自己を省みることによって「他者とともにより善く生きる」ことのできる人格特性を育むという役割があるのです。

社会不安は人の冷静さを奪い、本能的な攻撃性を露呈させる傾向があります。今年、コロナ禍の国内で問題化した「自粛警察」「不謹慎狩り」といった攻撃的な行為や、米国で再燃した根深い人種差別問題に端を発する暴動などが、典型的な実例として挙げられます。

米国の人種差別問題をめぐっては、渦中に開催された今年の全米オープンテニスで、黒人をルーツに持つ大坂なおみ選手が問題に目を向けてもらおうと、抗議の意思を示す行動に出ました。スポーツ選手が神聖な競技の場で競技とは無関係の発信をすることに対しては批判的な意見もありますが、あくまでも道徳の視点でとらえると、大坂選手の行動は平常心を逸した社会に覚醒を促すという大きな役割を果たしました。考えるきっかけを与えた大坂選手の行動は広い意味で道徳教育であったと考えられるのです。

他者に対する攻撃性が人に生理的なメカニズムとして備わっていることは、ノーベル賞受賞者であるオーストリアの動物行動学者、コンラート・ローレンツ（1903～89年）の著書『攻撃　悪の自然誌』（日高敏隆・久保和彦訳、みすず書房、1970年）にも記されています。社会生活では、この攻撃性を自己制御することが求められ、そのときに役立つのが道徳です。

「大学生と道徳　基本のき」（前編、後編）は、大学ＨＰ内「国学院大学メディア」に掲載。
QRコードからアクセス。

前編　後編

産経新聞社提供

共同通信社提供

論語の中で、孔子の門人だった曽子が言っています。

「吾日に吾が身を三省す」

この一節は、人は自己省察することにより、他者と共により善く生きることが可能になるーということを教えてくれます。道徳は、決して他者から押し付けられるものではなく、あくまでも個人の内面的な人としての生き方の善さを追い求める精神的作用です。異常事態下で、冷静さや平常心を取り戻そうとする際に思い返してほしい言葉です。

道徳は、互いに共有し合える価値観、つまり多くの人が納得できる「共通解」を見いだしていくことです。道徳教育の大きな意義は、他者と共有し合える価値観を基に、自分なりの「納得解」を創造していくところにあります。

道徳教育に即効性はありません。しかし、道徳は自分と対峙する人生そのものであり、生涯続く「自分探しの旅」といえます。加えて、人には叡智（Wisdom）があります。これから続く未来社会で不安のるつぼの中に置かれる状況に幾度となく遭遇したとしても、自らを省みながら、叡智をもって乗り越えていけるはずです。皆さんが、「より善く生きる」ための力を育んでいけるよう願っています。

「橋の上のおおかみ」を読んでみよう

「橋の上のおおかみ」は、小中学校の道徳でよく用いられるお話です。皆さんも小学生の頃に一度は読んだことがあるかもしれません。ストーリーはとても単純です。しかし、人生を重ねた今、解釈の仕方は昔と違うかもしれません。皆さんは今、このお話を読んで、どんなことを感じますか？

橋の上のおおかみ

奈街三郎 著

山の中に、一本橋がありました。

ある朝、うさぎがゆっくりと橋をわたっていると、向こうから、おおかみがやって来ました。

「こら、こら。」

と、おおかみは、うさぎをにらみつけました。

「おれがわたってきたのに気がつかなかったのか。もどれ、もどれ。」

おおかみにどなられて、うさぎは、しかたなく後ろにもどりました。

「えへん、へん。」

おおかみは、いい気持ちです。

それからというもの、おおかみは、この意地悪がおもしろくなりました。

きつねが来ても、たぬきが来ても、

「こら、こら。もどれ、もどれ。」

と、みんなを後ろに追い返しました。

ある日の夕方、おおかみが、いつものように橋をわたっていると、

橋の真ん中で、だれかにぶつかりました。

「こら、こら。」

と言いかけて、おおかみはびっくりしました。

目の前に、大きなくまが立っていたのです。

おおかみは、あわてておじぎをしました。

「これは、これは。くまさんでしたか。私が後ろにもどります。」

すると、くまは、手をふって言いました。

「いや、いや、おおかみ君。そんなことしなくていいんだよ。ほら、こうすればいいのさ。」

くまは、おおかみをだき上げると、そっと後ろに下ろしてくれました。

おおかみは、不思議な気持ちになって、くまの後ろ姿をいつまでも見送っていました。

次の日です。おおかみは、一本橋の真ん中でうさぎに会いました。

うさぎは、あわてて引き返そうとしました。

「いや、いや、うさぎ君。そんなことしなくていいんだよ。ほら、こうすればいいのさ。」

おおかみは、うさぎをだき上げて、そっと後ろに下ろしてあげました。

「えへん、へん。」

いい気持ちです。

不思議なことに、おおかみは、前よりずっといい気持ちになりました。

出典：「中学道徳1」（光村図書出版）

田沼先生のアドバイス

このお話のテーマは「思いやりの心」です。皆さんにはおおかみになったつもりで、次のことを考えてみてください。

①おおかみは、くまに出会ったことで、どう変わったのでしょう。

②おおかみが「前よりずっといい気持ちになった」と感じたのは、なぜでしょう。

③おおかみは、本当に変われたのでしょうか。

読者アンケート（5面にQRコード）で回答をお寄せください

インフォダイジェスト

…在学生　…保護者　…卒業生　…一般　…受験生
内内容　日日にち　時時間　場場所　対対象　申申し込み　料料金　問問い合わせ

大学からのお知らせ

令和３年度 一般選抜のご案内

内来年度の一般選抜を**下表**の日程で実施します。入学制度のV方式とA日程同時出願や、複数学科を併願した場合、２回目以降の受験料を割引する応援割も用意。詳細は本学HPとQRコードで確認してください。

※本学の一般選抜は受験ポータルサイト「UCARO（ウカロ）」上でのインターネット出願となります。

問入学課（☎03・5466・0141）

卒業式、卒業証書・学位記並びに修了証書授与式について

卒業式・卒業証書等授与はいずれも、新型コロナウイルス感染拡大防止のため学生のみの参列とします。風邪などの症状がある方は参加を見合わせてください。参列時はマスクを着用のうえ、手指の消毒や検温にご協力ください。ご家族向けに、動画配信サービスによる卒業式ライブ配信を予定しています。なお、感染状況によっては変更が生じる可能性があります。

日令和３年３月21日㈰

[卒業式]

場グランドプリンスホテル新高輪

対・時

▶神道文化学部・専攻科・別科・人間開発学部＝10時～
▶法学部＝12時～
▶経済学部＝13時45分～
▶文学部＝15時30分～

[卒業証書・学位記、修了証書などの授与]

対・時・場

▶神道文化学部・専攻科・別科＝12時30分～、渋谷キャンパス
▶人間開発学部＝13時～、たまプラーザキャンパス
▶法学部＝14時15分～、渋谷キャンパス
▶経済学部＝16時～、渋谷キャンパス
▶文学部＝17時45分～、渋谷キャンパス

問総務課（☎03・5466・0111）

キャリアサポート

OBOG・内定者アドバイス会

内各業界で活躍する先輩や内定者（４年生）から、会社の実態や就職活動に関するアドバイスが聞ける企画です。人事担当者には聞きづらい質問も、先輩であれば気軽に聞け、業界や企業の実態についてリアルを知ることができます。採用面接では、訪問したOBOGの人数や印象を聞かれることもあります。先輩からアドバイスをもらいましょう！　ＷＥＢ配信。

日12月19日㈯

対１～３年生

※詳細確認・申し込みはK-SMAPY Ⅱから行ってください

博物館

料無料

時原則、水・木・金・土曜日の12時～17時（最終入館16時30分）、短縮開館

企画展「楽石雑筆―神道考古学の祖 大場磐雄の記憶と記録―」ミュージアムトーク

内企画展「楽石雑筆―神道考古学の祖 大場磐雄の記憶と記録―」の関連企画。「神道考古学」を提唱したことで知られる考古学者・大場磐雄を２人の愛弟子が語ります。

ミュージアムトークは、YouTubeでオンライン公開（収録配信）します。視聴は博物館ＨＰとQRコードから。

▶椙山林繼本学名誉教授＝11月28日㈯14時配信開始
▶茂木雅博茨城大学名誉教授（国学院大学博物館客員教授）＝12月５日㈯14時配信開始

※博物館関連イベントの問い合わせは☎03・5466・0359

台風14号で被災された方へ

内令和２年の台風14号により災害救助法が適用された地域に主たる家計支持者が居住し、家計の急変によって学業生活に支障をきたすおそれのある学生は、保証人（保護者など）と相談の上、下記の大学各窓口までご相談ください。

対災害救助法提供地域：東京都三宅村、御蔵島村

問▶学生生活課（☎03・5466・0145）
▶たまプラーザ事務課（☎045・904・7700）
▶大学院事務課（☎03・5466・0142）

新型コロナ関連のお知らせ

感染が疑われたら保健室に連絡を

新型コロナウイルス感染症と診断された方、疑いがあると言われた方は、必ず保健室にメールか電話で連絡をしてください。

▶保健室アドレス
✉hoken@kokugakuin.ac.jp
▶渋谷TEL（平日９時～17時）
☎03・5466・0148
▶たまプラーザTEL（平日９時～17時）
☎045・904・7721

令和３年度　一般選抜日程

入試制度		試験日	出願期間（消印有効）	合格発表
V方式（大学入学共通テスト利用入試）		1月16日㈯・17日㈰ 1月30日㈯・31日㈰ 本学個別試験なし	1月４日㈪～15日㈮	2月13日㈯
A日程（全学部統一）	３教科型	2月２日㈫	1月４日㈪～21日㈭	
	得意科目重視型	2月３日㈬		
	学部学科特色型	2月４日㈭		
B日程（後期）		3月２日㈫	1月４日㈪～2月22日㈪	3月11日㈭

※試験科目などの詳細については本学HPで確認してください

おやごころこのおもい　第４回

「修理固成」（古事記）の子育て
～「教職の国学院」を改めて問う～

名誉教授 **新富 康央**

しんとみ・やすひさ
学校法人国学院大学特別参事。人間開発学部初代学部長、専門は教育社会学、人間発達学。新しい時代の子育て論には定評。

国学院大学は戦前、２つの官立高等師範学校に対し、特例として高等師範部が承認された稀有な私立大学です。明治維新史の視点から、この意味をさらに掘り下げることができます。実は、日本の学校の起源は、神社に関わる、欧米とは異なる特質を持っているのです。

欧米において学校の起源は、読み書きを教える「サーカス（地方巡業）」です。サーカスなので、今日でも欧米では校長は、スクールマスター（団長）と呼ばれ、人事権もカリキュラム編成権も持っています。

近世に入り、都市化が進み、巡業が不要となり定住したのが、今日の欧米の「学校」なのです。

それに対し、日本の学校は、明治５年「訓導令」による神社（神仏習合の寺院も含む）の学校を起源とします。神社の学校の期間は数年ですが、これを起源とすることで、一口に「学校」と言っても、日本の学校は、欧米で言う学校とは異なる特質のものとなりました。

神職の延長なので教師は「聖職」とされました。伝統校では寺子屋を起源とする記述もありますが、実際は神社付近の当時大規模化していた寺子屋の施設利用でした。

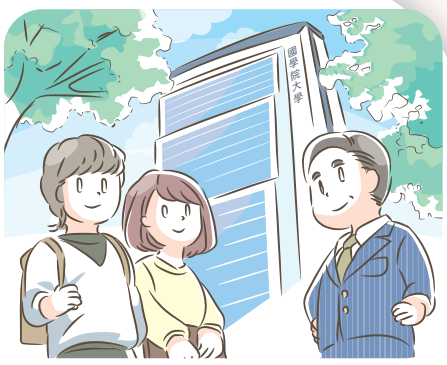
明治政府が神社に学校を置いたのは当時、神社は祈りの場だけでなく、地域住民の生活改善の啓発活動の場でもあったからです。したがって、日本の学校は、欧米と異なり、読み書きだけでなく、生徒指導も心の教育（道徳）も求められるのです。

「教職の国学院」は、わが国の子育て（教育）の在り方も問います。本学の設置理念の基底である『古事記』の「国生み」において、イザナギノミコトは、神々から「修理固成（つくりかためなせ）」の命を受けます。それは、人心の開発と社会の開発です。

欧米の天地創造の創世神話の「（神が）つくる」子育てに対し、日本の「なる」子育てです。早苗が一株立ち（自律）し、たわわに稲穂を実らせる（主体性）ように、人の育ちも「なる」なのです。

しかし、「なる」子育ては、「つくる」子育て以上に、大変な手間と独自の技能を必要とします。そこで、各人の潜在的な資質能力を「つくり固め成す」人間開発の手法を学ぶ教育系学部として、「人間開発学部」も創設されました。

コロナ禍の今日、本学の創立138周年を祝して、こうした「人づくりの国学院」の歴史を、親子で共有し合うのも良いですね。



楽しもう国大ライフ！ 私たちの部会・サークル・研究会

最終回

現代服飾研究会Gekka.

まだできて間もないサークルのため、大学で新しいことに挑戦したい人、ファッションとメークが大好きな人、これから詳しくなりたい人、男女問わず大歓迎です！

ココが自慢　会報誌の発行、和装デーでのイベント企画をしています。

[構成] ２年15人、３年３人、４年０人
[活動場所]【渋谷】教室、DHCコミュニケーションスペース
[Twitter] @Gekka_official_　**[Instagram]** @gekka_ryoran

金春会

私たちは能最古の流派である金春流の舞（踊り）や謡（歌）の稽古をしております。他には他大学との交流会や合宿、神社での奉納公演や、師範の舞台公演にお邪魔させてもらうなどさまざまな活動を行っています。初心者にもＯＢ・ＯＧのプロ能楽師や優しい先輩方が手取り足取り教えてくれます。着物や袴を着てみたい方、日本文化に興味のある方、他ではできないことをやってみたい方、ぜひ金春会へ！

ココが自慢　プロ能楽師の教えを受けられる。着物や袴が着られるようになる。古典の知識が増える。礼儀作法が身につく。

[構成] ２年４人、３年１人、４年０人
[活動場所]【渋谷】祭式教室、恵比寿社会教育館
[Twitter] @kokugakukomparu

戦歿先輩学徒慰霊祭実行委員会

弊会は毎年10月14日に大学内の「学徒慰霊之碑」前において「国学院大学戦歿先輩学徒慰霊祭」を斎行するために活動しています。慰霊祭は学生が主体となって斎行しているもので、昭和46年に学生有志によって慰霊祭が始まり、以降毎年行われ今日まで続いています。戦没者のご親族やOBなど、毎年多くの方々にご参列いただいています。新入生の皆さんも国学院大学の後輩として、慰霊祭の担い手になってみませんか？

ココが自慢　学生が主体となり慰霊祭を斎行している数少ないサークルです。国学院大学の特色の一つとも言えます。

[構成] ２年１人、３年５人、４年０人
[活動場所]【渋谷】「学徒慰霊之碑」前

卓球サークル

卓球サークルは田園都市線用賀駅から徒歩８分の世田谷区玉川台区民センターで練習しています。去年設立したばかりのサークルでメンバーは少ないですが、卓球が好きな人たちで技術の向上を図り真面目に練習に励んでいます。今のメンバーはほとんど出身校は違いますが、卓球を通して親睦を深めることができています。

ココが自慢　去年公認サークルとなりまだ認知されていないので、学内の卓球経験者などに多く知ってもらいたいです！

[構成] ２年10人、３年０人、４年０人
[活動場所] 玉川台区民センター
[Twitter] @kokugakuintable

百人一首の会

百人一首が好きだ！　和歌が好きだ！　そんなあなたにおすすめです。月に２回、百人一首の歌について研究しています。研究と鑑賞がメインですが、楽しくカルタとりもしています。興味がある方は、ぜひご一報ください！　一緒に百人一首を学び、和歌についての理解を深めませんか？

ココが自慢　合宿で、百人一首にまつわる場所の見学に行きます。実際の空気に触れることで、和歌の理解が深まります。

[構成] ２年７人、３年０人、４年３人
[活動場所]【渋谷】若木タワー1011研究室
[Twitter] @Momoshikiya_100

万葉研究会

本会は月１回の研究会発表と週１回の勉強会を基本に活動しています。本会の特徴として、教授や先輩方など、幅広い会員が多様な分野を学び、万葉集はもちろん、日本文学や民俗学、祭や神道信仰など、広い分野に関心を持ち、多角的に古代世界と日本文化の根源を考え、学び合う場を目指して活動しています。また、年１回、奈良などを中心に万葉の故地を旅する万葉旅行など、学外活動も豊富で、知識がなくても一から日本文化を学べます。

ココが自慢　先生や先輩との距離が近く、授業や発表、レポート、卒論まで、気軽に相談できます。一緒に考えましょう！

[構成] ２年１人、３年１人、４年４人
[活動場所]【渋谷】若木タワー1008研究室など
[Twitter] @ManyoKokugakuin

SS3最新設備で学生アスリートの活躍に貢献

国学院大学の学生アスリートが国内・海外で活躍することをサポートするたまプラーザキャンパスの新施設「SPORTS SQUARE 3 （ＳＳ３）」（地上３階、地下１階）。五輪出場など、世界トップレベルのパフォーマンスを視野に入れた選手らが十分なトレーニングを行えるよう、教育機関の体育施設としては国内屈指の最新設備をそろえている。このほど、実際にＳＳ３を訪ねて学生に使い心地を聞いた。

ＳＳ３の３階多目的ホールでは、卓球部員が互いに声を掛け合いながら熱心に練習に取り組んでいた＝**写真**。６月からこの練習場を使用している猪俣礼智さん（法１）は、以前使用していた卓球場に比べ、練習する環境が大きく改善したと話す。「卓球は、湿度の違いが球の感触にダイレクトな影響を及ぼす繊細な競技。空調が大会会場の状態に近くなったことで、本番と同じ環境を再現でき、練習に身が入る」と満足そう。

一緒に練習をしていた藤井崇生さん（初教１）は「地下のトレーニング室にはいろいろな重さのダンベルがあり、指導者と相談しながら日々のメニューを練ることができる。天井から吊り下がるロープを使い、バリエーションに富んだ鍛え方もできる」と鍛錬の様子を振り返った。

ＳＳ３では、学生がスポーツと学修を両立させやすい環境を整えるため、さまざまな工夫を取り入れている。入館するとすぐに目に入るのが１階の多目的スペース。常時Ｗｉ―Ｆｉが使用できるほか、昼食をとるなど飲食も自由。授業後や練習前などの空き時間に利用する学生も多い。ここで遠隔授業を受講するという鈴木健太さん（中文１）は「友人と談笑もでき、広くて使いやすい」と話した。

硬式野球部

東都大学野球秋季リーグ３位

東都大学野球秋季１部リーグは全日程（９月22日～11月４日）を終了した。新型コロナウイルス感染対策の一環として、秋季リーグは従来の勝ち点制ではなく、２戦総当たりで勝利数を競い、国学院大学硬式野球部は６勝４敗で３位に終わった。

亜細亜大、立正大に次ぐ３位で最終週を迎えた硬式野球部。11月３日の立正大との１回戦直前に、亜細亜大が勝利し優勝の望みが消えた。それでも一回に４番・瀬戸成一郎外野手（日文３）が右中間に２ランを放ち先制すると、先発の上出拓真投手（健体４）が７回１失点と好投。

三回に５番・中山遥斗選手（健体４）の適時打で１点、九回に８番・戸堀敦矢選手（健体４）のソロ本塁打で加点し、粘る立正大を４－２で振り切った。

翌日の２回戦は、序盤に５点を失う苦しい展開。五回に２番・内藤諒一選手（日文４）の３ランなどで４点を返したが、立正大の救援陣を前に１安打と苦しみ、４－６で敗れリーグ戦を終えた。

令和２年度東都大学野球秋季１部リーグ結果

順位	大学名	勝ち数	負け数	勝 率
1	亜細亜大	8	2	0.800
2	立 正 大	7	3	0.700
3	国学院大	6	4	0.600
4	中 央 大	3	7	0.300
4	東 洋 大	3	7	0.300
4	駒 沢 大	3	7	0.300

防御率２点台で２勝を挙げた上出拓真投手

チーム最高の３割２分４厘を記録した瀬戸成一郎選手

硬式野球部

小川主将 千葉ロッテが指名
「持ち味の守備力生かす」

プロ野球ドラフト会議が10月26日、東京都内のホテルで行われ、国学院大学硬式野球部の小川龍成主将（健体４、内野手）が千葉ロッテから３位で指名を受けた。小川主将は指名確定後、たまプラーザキャンパスでオンラインによる記者会見に臨み、「自分は派手なプレーをするタイプではないと思っているが、持ち味の守備力を生かしたい」と抱負を述べた。

本学硬式野球部員のプロ指名は２年ぶり。小川主将は千葉ロッテの印象について「関東のチームなので試合を見に行ったこともあり、身近に感じる」とした上で、パ・リーグでの戦いについては「一流の投手がそろっている。全ての投手との対戦が楽しみ」と意気込みを語った。

小川主将は前橋育英高（群馬）から本学へ進学。一昨年の東都大学春季リーグ戦でベストナインに選ばれたほか、昨年夏には大学日本代表「侍ジャパン」にも選出され、学生屈指の遊撃手に成長してきた。

小川主将は「高校時代には甲子園出場が一度きりで実績がなくプロ志望をあきらめたが、大学４年間で守備力を磨き、飛び抜けた自信にすることができた」と指名を受けた喜びをかみしめた。

小川主将と共に会見に臨んだ鳥山泰孝監督は「高い守備力と脚力の二拍子が備わった選手。堅実なプレーができるので、子どもたちの手本になってほしい」と期待を込めた。

オンライン会見を終え、笑顔を見せる
小川龍成主将（右）と鳥山泰孝監督

オンラインで若木祭 自粛乗り越え成果披露

本学の学園祭・第138回若木祭が11月１～３日、実行委員会が設けたYouTubeチャンネルなどで開催された。新型コロナウイルスの感染拡大で４月から課外活動が実施できない期間が続いたなか、参加した各部会は10月から本格的な準備を進め、感染予防対策を徹底し、無観客、オンラインでの開催にこぎつけた。

実行委員会のYouTubeチャンネルでは、フラメンコサークルRojos Pimientosや落語研究会などがライブ配信で踊りや落語を披露したほか、複数の部会が事前に収録した部会紹介を配信するなどした。

体育連合会は、各部会の演武や毎年恒例のお笑いライブをビデオ会議システム「Zoom（ズーム）」を使って渋谷キャンパスからライブ配信した。

50回目の慰霊祭

「第50回国学院大学戦歿先輩学徒慰霊祭」が10月14日、渋谷キャンパス学徒慰霊碑で行われた。昭和18年10月14日に本学で学徒出陣の壮行会が行われたことにちなみ、同実行委員会が主催して毎年行われているもの。今年は、新型コロナウイルス感染対策として、参列者は限定され、瑞玉会、青葉雅楽会などの学生が奉仕した。

慰霊碑には、437人の本学学生・教職員・卒業生を祀っている。

団体･個人の成績

ソフトテニス部＝首都学生ソフトテニス秋季リーグ戦の男子１部が10月18日、女子１部が25日に国学院大学相模原グラウンドで行われた。同部にとっては今年初の公式戦。男子は６校によるリーグ戦で５連勝し完全優勝を果たした。女子はリーグ所属の６校のうち２校が感染症対策のため活動を自粛し４校での対戦。２勝１敗で東京経済大に次ぐ２位となった。

関東学生ソフトテニス秋季リーグ戦は10月31日、11月１日、男子１部が早稲田大所沢キャンパスで、女子２部は本学相模原グラウンドでそれぞれ試合が行われた**＝写真（同部提供）**。男子は６校による総当たりで３勝２敗、勝ち点３で３位、女子は５校による総当たりで１勝３敗、勝ち点１で４位だった。

陸上競技部

全日本大学駅伝 総合９位
33秒差でシードならず

秩父宮賜杯第52回全日本大学駅伝対校選手権大会が11月１日、愛知・熱田神宮から三重・伊勢の神宮までの全８区間、全長106.8キロのコースで行われた。昨年の大会で７位に入りシード権を獲得した国学院大学陸上競技部は、６年連続８回目の出場。新型コロナウイルスの影響で出雲駅伝が中止となり今季の学生駅伝開幕戦となったレースは総合９位で３年連続のシード権獲得はならず、悔しい結果となった。優勝は、駒沢大学で６年ぶり13回目。

レースは、例年を上回るハイペースで進み、終始先頭が目まぐるしく入れ替わる大混戦。本学は、１区・島﨑慎愛選手（経営３）が、一時は先頭で集団を引っ張るなど実力を発揮し区間４位でたすきを繋ぐと、平成30年１月の箱根駅伝以来の３大駅伝出場となった臼井健太選手（健体４）が区間６位をマークするなど３区を終えて４位につけた。

中盤以降９位に下がり、シード権内の８位と20秒差でたすきを受けたアンカーの殿地琢朗選手（健体３）は、懸命に上位を猛追したが、及ばず８位と33秒差の総合９位（５時間15分16秒）で伊勢神宮内宮前を駆け抜けた。

レース後、前田康弘監督は「選手は全力を尽くし頑張った。結果は残念だが、得たものや課題が多い。結果を受け止め、修正すべきところを修正し、箱根駅伝総合３位を目指したい」と、５区を走った木付琳主将（経３）は「シードを落とす結果となって、素直に悔しい気持ちが大きい。箱根では『今年のチームも強い』という証明をしたい」と話した。

出場選手成績

区間	氏名	学年	タイム	区間順位	総合順位
1	島﨑　慎愛	3年	27'15"	4	4
2	臼井　健太	4年	31'56"	6	5
3	中西　大翔	2年	34'12"	8	4
4	河東　寛大	4年	34'26"	8	8
5	木付　　琳	3年	36'38"	6	8
6	伊地知賢造	1年	38'43"	10	9
7	藤木　宏太	3年	52'21"	7	9
8	殿地　琢朗	3年	59'45"	10	9

総合成績

順位	大学名	総合成績
1	駒　沢　大	5:11:08
2	東　海　大	5:11:31
3	明　治　大	5:12:24
4	青山学院大	5:12:42
5	早 稲 田 大	5:13:04
6	東　洋　大	5:13:15
7	帝　京　大	5:14:40
8	順 天 堂 大	5:14:43
以上、上位８校シード権獲得		
9	国 学 院 大	5:15:16
（以下略）		

出場選手の声

- １区・島﨑慎愛選手
  「収穫のあるレースになった。箱根までしっかり状態を上げていき、チーム目標の３位を達成できるように自分の走りで勢いをつけていきたい」
- ２区・臼井健太選手
  「先頭と秒差でスタートでき、前を追う展開で伸び伸び走ることができた。悔しい思いを力に変えて箱根に向かっていきたい」
- ３区・中西大翔選手
  「納得のいく走りはできずに不完全燃焼。チーム皆でまた笑えるように全力で頑張る」
- ４区・河東寛大選手
  「自分の区間で流れを悪くしてしまい悔しさの残る結果。残り２カ月を大切に過ごして、箱根駅伝では４年生らしい走りで笑って終わりたい」
- ６区・伊地知賢造選手
  「大学駅伝デビュー戦で改めてレベルの高さを痛感したので、この悔しさを忘れず今回の経験を生かしてこれから取り組んでいこうと思う」
- ７区・藤木宏太選手
  「コロナ禍で大変な中、駅伝が開催されたことに感謝している。シード権を落としてしまったが、このまま終わるわけにはいかない。箱根での総合３位を目指して頑張りたい」
- ８区・殿地琢朗選手
  「（今年の）箱根駅伝と似た展開でたすきを受け取ったが期待に応える走りができず悔しい。箱根では強さを証明する走りをしたい」

一時は先頭に躍り出た１区・島﨑慎愛選手（月刊陸上競技提供）

総合９位でゴールした８区・殿地琢朗選手（朝日新聞社提供）

第11回観月祭を斎行 オンラインで配信 平安祈る

神道文化学部の学生らが古式ゆかしく日本伝統の管絃（かんげん）や祭祀（さいし）舞を披露する第11回観月祭が10月31日、渋谷キャンパス祭式教室で行われた。例年多くの来場者が集まるが、今年は新型コロナウイルスの感染予防のため出演者を絞り、規模を縮小して無観客で実施し、YouTubeで同時配信した。

観月祭は祭典、管絃、祭祀舞の３部構成で執り行われた。祝詞奏上では斎主のセレスト・ハルトさん（神文３）が収穫の感謝と新型コロナウイルスの早期収束を祈念した。

管絃は、平調音取（ひょうじょうのねとり）から始まり、陪臚（ばいろ）が演奏された。選抜された12人の学生が笙（しょう）、篳篥（ひちりき）、龍笛（りゅうてき）の三管と鞨鼓（かっこ）、太鼓、鉦鼓（しょうこ）の三鼓を奏で軽快かつ力強い旋律を披露した。

祭祀舞では、女子学生２人による浦安の舞と男子学生１人、女子学生２人による朝日舞が奉納され、１時間にわたる観月祭が終了した。

セレストさんは「秋の実りが豊作であることへの感謝と新型コロナの早期鎮静、国民が平安に過ごせるよう心を込めて祝詞を奏上しました」と振り返り、「初めてのオンライン配信で何度も立ち位置を確認しながら稽古をしました。会場で観客の方に見てもらえなかったが、来年に向けて励みになります」と話した。

女子学生２人による浦安の舞

オンライン配信された観月祭の様子はQRコードから視聴できます。

K:DNA

2020 11

K:DNA——創立138年目を迎えた国学院大学の遺伝子…個人・個性を尊重する校風　若いエネルギーが未来を変える

柔道部

講道館杯 男子66㌔級で表彰台独占
——院友・藤阪選手が初優勝

新型コロナウイルスの感染拡大後、柔道では初となる全国規模の大会となった講道館杯全日本柔道体重別選手権大会が10月31日、11月１日、千葉ポートアリーナ（千葉市）で行われた。昨年度、相田勇司選手（法３）が初優勝を飾った男子66㌔級では、国学院勢が席巻。院友の藤阪泰恒選手（パーク24、平31卒・127期健体）が初優勝、前回大会優勝の相田選手が２位、武岡毅選手（日文３）が３位と表彰台を独占した。同大会で国学院勢が複数表彰台に上がるのは初の快挙。

連覇を目指した相田選手は２回戦から順調に勝ち進むと準決勝では、同級生の武岡選手と昨年に続き２年連続で対戦。互いに決め手を欠き延長戦となる中、３つ目の指導が入った武岡選手の反則負けとなった。決勝は相田選手と初優勝を目指す藤阪選手との対戦。２分過ぎに組み手争いの中から藤阪選手が払い腰で技ありを決め逃げ切った。

表彰式直後の優勝インタビューで藤阪選手は「やっと優勝できて素直にうれしい。（相田選手との決勝に）先輩として負けられなかった。優勝したい気持ちが強かった」と喜びを語った。

この他、同大会に出場した学生では男子66㌔級で新井雄士選手（史３）が２回戦敗退だった。卒業生では男子73㌔級の島田隆志郎選手（パーク24、令２卒・128期健体）と男子90㌔級の北野裕一選手（パーク24、平25卒・121期経営）が敗者復活戦で敗れ７位だった。

相田選手から払い腰で技ありを奪う藤阪選手（左）

２年続けて準決勝で激突する相田選手（左）と武岡選手

左から準優勝・相田勇司選手、初優勝・藤阪泰恒選手、右端が３位・武岡毅選手

写真はいずれも全日本柔道連盟提供

未来につなぐ 学術資産研究ノート

足利義満によって確定された吉田家の拠点

室町幕府の３代将軍・足利義満が、吉田神社の社務である卜部吉田家に対し、その社域の画定と安堵（あんど）をおこなった文書である。

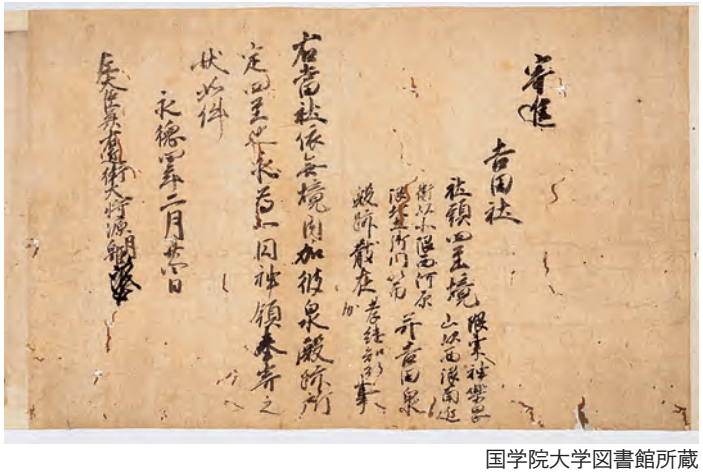
吉田神社や神楽岡が所在する吉田の地一帯（京都市左京区神楽岡〈吉田山〉周辺）は、鎌倉前期以来、公家の居宅や「吉田泉殿」といった別荘が造営される住宅街の様相を呈していた。しかし、これらは南北朝の動乱期を通じて遺棄され、やがて廃れてしまう。

一方、吉田神社の社務であった卜部冷泉家はこのころ居を室町の地に構えていた。ところが、南北朝最末期の永和４（1378）年に足利義満が室町第（花の御所）に移ることとなり、それにともなって卜部冷泉家は神社の近辺へ移り住み、ほどなく家名も「吉田」と改めることとなった。卜部吉田家の誕生である。

本文書は、こうした吉田家の一連の動きのなかで発給された、寄進状の体裁による安堵の文書である。卜部吉田家の政治上、また神祇政策の活動上の拠点が定まったことを象徴する文書といえよう。

比企貴之（文学部兼任講師・研究開発推進機構PD研究員）

足利義満寄進状（吉田家文書）


国学院大学図書館所蔵